

淡路納税貯蓄組合連合会

租税教室の講師を務めて

淡路納税貯蓄組合連合会副会長 秦 紳一郎

南あわじ市立八木小学校にて、6年生の公民の授業の一環として税に関するお話をいたしました。この小学校の児童は3年生の時に、わがまち探検ということで例年私の職場（醤油製造工場）を訪れており、その時のことを覚えている子どもたちもいたのでスムーズに話をすることができました。

まず授業の取り掛かりとして知っている税金の種類を尋ねると、やはり一番声が上がるのは消費税です。子どもたちにとっても何を買うにもどんなサービスを受けるにも必ず付いてくる消費税は、一番身近な税金として認知されていました。それ以外は学年によって様々で、お給料を貰っている人の所得税などもよく出てきます。

子どもたち一人一人に教育費としていくらの税金が使われているか、一つの学校を造るのにどのくらいの費用



が税金から支払われるのかといった、子どもたちの身近なところでの税金の必要性を話します。税金は必要だと思いますか？の質問に対しては、授業ですでに習っているのか必要だと答える児童が思ったより多い印象でした。

そのあとDVDの鑑賞を行い、税金のある時と無い時の差についてアニメを通して学んでもらいます。空気や水と同じように、安全やインフラなど税金で賄われているサービスが無くなるということがどういう事なのかを理解してもらえたと思います。最後は全員税金が必要だと手を挙げていました。

プリントを配って感想を書いてもらった後は、持参した一億円の現金（見本）を見て触って授業を終わりました。子どもたちに分かりやすいように話すのはなかなか難しい事だと改めて感じました。



街頭PR活動について

「令和2年度税を考える週間」行事の一環として11月10日に「街頭PR作戦」をイオンスタイル洲本店前で実施。税務広報チラシ、イータ君スポンジとティッシュを同封したものを900セット用意し、洲本税務署、兵庫県淡路県民局洲本県税事務所、洲本市税務課及び収納対策課、淡路納税貯蓄組合連合会、公益社団法人淡路納税協会の総勢33名と、洲本税務署の協力で、国税庁e-Taxキャラクターの「イータ君」も参加し、新型コロナウイルス感染防止のため、全員マスク、手袋をし、たすき掛けでPRを行いました。

